

令和2(2020)年度
東京大学国際卓越大学院教育プログラム
「高齢社会総合研究国際卓越大学院 (WINGS-GLAFS)」
コース生募集要項

1. プログラムの趣旨

(1) 本プログラムの教育研究上の目的

国際卓越大学院教育プログラムは、新しい価値創造の試みに果敢に挑戦するとともに、多分野や異文化との積極的な対話と協働を進め、その知見を主体的な行動によって社会にフィードバックできる高度博士人材を養成する特別な教育課程である。

本プログラムでは、「活力ある超高齢社会を実現するためには、分野横断的専門家のチームと地域住民、行政、企業等による協働的活動を主導し、様々な現場の様々な課題を解決する力を備えた多様な人材が必要であり、座学に加えて、現場で分野横断的な取り組みに加わり、体験することが重要である。」という、これまで本学で行われてきた高齢社会総合研究学(ジェロントロジー)の研究・実践の蓄積を踏まえ、フレイル予防研究(老年医学)、ジェロテック研究(機械情報系工学)、ハビタット研究(建設系工学)を3本柱とする医工連携研究の最前線の現場を主たるフィールドとしつつ、ジェロントロジーの様々な学問領域との関連を理解する**俯瞰力**、特定課題解決時に必ず生じる**周辺領域理解力**、具体の特定課題を実社会の中で解くために必要な社会規範や経済の理解、現場の人間関係への対応、社会に対する説得力あるプレゼン能力等によって構成される**社会継続力**を、それぞれ**概論、特論、実習**という形で教育プログラムに取り入れることによって、**多領域連携力**の涵養を目指している。

(2) 養成する人材像

日本及び世界のあらゆる領域で直面する高齢社会特有の課題解決に向けて、医工連携研究の最前線の現場で身に付けた俯瞰力、周辺領域理解力、社会継続力を持ち、研究の多領域連携力を身につけた人材

2. 申請資格

本コース生に応募できる者は、2020年4月に下記＜本プログラムの参加専攻＞の修士課程1年次または4年制博士課程1年次または先端学際工学専攻博士後期課程1年次に在籍する者で、かつ、次の要件を全て満たす者とする。

- ・高齢社会の課題解決に資する研究意欲、修博一貫課程への意欲により博士の学位を取得しようとする者
- ・本プログラムの趣旨、履修要件等のルールを十分に理解する者
- ・本プログラムの趣旨、履修要件等のルールを修士論文、博士論文の指導教員に十分に理解していただいている者
- ・博士の学位記に本コースを修了したことが付記されることを了解している者
- ・下記の本プログラム参加専攻の博士後期課程に進学することを目指す者 ※
- ・本コース生として採用後、日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC1、DC2)に応募し、採択された場合には本コースに引き続き在籍を続けることを確約する者

※下記の専攻以外への編入、博士後期課程への進学をする場合は、本プログラムの履修を継続することはできない。

※修士課程修了後に就職等により博士後期課程への進学を目指さない学生は、コース生となることはできない。

＜本プログラム参加専攻＞

工学系研究科: 社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻、機械工学専攻、
精密工学専攻、化学システム工学専攻、先端学際工学専攻

人文社会系研究科: 社会文化研究専攻

教育学研究科: 総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻

法学政治学研究科: 総合法政専攻

総合文化研究科: 広域科学専攻

農学生命科学研究科: 生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物科学専攻、
農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻

医学系研究科: 社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻

新領域創成科学研究科: 先端エネルギー工学専攻、人間環境学専攻、
社会文化環境学専攻、国際協力学専攻

情報理工学系研究科: 知能機械情報学専攻

3. 募集から採用までの手続き

(1) 募集

- ① 募集人員 各年度 定員10名
- ② 募集時期 4月 (年1回)
- ③ 説明会 募集に関する説明会を下記日程にてオンライン授業形式にて行う。
 - ア. 開催日程 4月6日(月) 16:00～17:00
 - イ. 説明会への申込方法 件名に「4/4GLAFS説明会参加申込」、本文に ①氏名 ②4月在籍予定の所属専攻 ③4月時点の学年 を明記の上、info@glafs.u-tokyo.ac.jpまでメールで申込み
 - ウ. 説明会への申込締切 4月6日(月) 正午

* 当日の動画・資料は希望者に後日配布する予定です。希望者はメールで連絡すること。

(2) 申請

- ① 申請書類及び提出方法
 - ア. 申請書 所定の用紙(様式1(P6-10))に申請者が記入の上、下記の受付まで持参・郵送またはメールにて提出すること。
 - イ. 教員の意見書 所定用紙(様式2(P11))に指導教員又は所属専攻のWINGS-GLAFS担当教員が記入する。提出方法は、「教員が厳封した意見書を持参・郵送」、あるいは「記入した教員から直接メール送信にて提出」のいずれかにて提出すること
- ② 受付期間 令和2(2020)年4月3日(金)から4月10日(金)15:00まで(必着)。
- ③ 受付窓口 東京都文京区本郷7丁目3番1号・工学部8号館7階713
東京大学高齢社会総合研究機構 GLAFS 担当
受付時間 平日10:00～17:00
申請書提出先・問い合わせ先 info@glafs.u-tokyo.ac.jp

(3) 選抜方法

コース生の選抜は、申請書類(申請者情報、研究計画、参加動機と将来構想、指導教員等の意見書)、面接を総合的に判断して行う。

面接予定日:2020年4月11日(土) 13:00～

申請書提出後、メール等にて日時調整を行う。なお、新型コロナウイルス感染防止の移動制限などの状況によっては、WEB面接を行う可能性がある。

(4) 選抜結果の通知

選抜結果の発表は、令和2(2020)年4月11日(土)(18時予定)に申請者全員に対し、メールで通知する。

(5) 採用手続

採用手続書類は、発表後にメールにて採用内定者に送付する。採用内定者は、採用手続要領により、**令和2年(2020)年4月17日(金)15:00まで**に必要な採用手続(採用手続書類の提出)を行うこと。所定の期間内に採用手続を行わない場合は、採用内定を辞退したものと取り扱う。

4. プログラムの概要

(1) カリキュラム ―高齡社会総合研究学 概論・特論・実習―

本プログラムでは、多領域連携力の涵養のため、ジェロントロジーが様々な学問領域から構成されることを理解する俯瞰力修得のために必修の**概論**、特定課題解決時に必ず生じる周辺近接領域の存在・特性・連携の仕方を理解する周辺領域理解力修得のために選択必修の**特論**、具体的な特定課題を実社会の中で解くために必要な社会規範や経済の理解、現場の人間関係への対応、社会に対する説得力あるプレゼン能力等によって構成される社会接続力修得のために選択必修の**実習**を、それぞれ概論、特論、実習という形で採り入れる。さらに、年に2回の**全体発表会**を設け、履修生と関連教員全員がそれぞれの研究手法を学び合う場を提供する。

＜概論(座学)＞ 俯瞰力の修得（必修／2科目4単位履修）

高齡社会における人間の「個」と「社会」という存在形態に依拠した形で、高齡社会に関わる基礎的知の基盤を伝授する。

＜特論(座学)＞ 周辺領域理解力の修得（選択必修／3科目6単位以上履修 ※）

高齡社会総合研究学の各専門分野の最前線を示す専門領域にかかわる視座を提供する。履修生は、これらの講義群の中から自らの興味と、実社会において実現したい生活場面に関わる、気になる近接領域の最前線を学ぶ。

＜実習(フィールド)＞ 社会接続力の修得（選択必修／3科目6単位以上履修 ※）

活力ある超高齡社会を実現するためには、分野横断的専門家のチームと地域住民、行政、企業等による協働的活動を主導し、様々な現場の様々な課題を解決する力を備えた多様な人材が必要であり、上記の座学(概論と特論)に加えて、現場で分野横断的な取り組みに加わり、体験する。複数の実習を履修することを通して、マルチスケールの生活場面への研究成果の社会接続の技量を体験的に学ぶ。集中講義形式で、選択肢の高いカリキュラムとする。

なお、実習は概論において高齡社会の基礎を修得した後に履修するものとする。(概論単位取得済が実習履修要件)

＜全体研究発表会＞ 多領域連携（実習発表／博士論文研究発表）

実習履修者には、各実習の学期最後の講義として、年に2回の全体研究発表会を設け、本プログラム履修生全員で、それぞれの実習の成果を発表する。加えてこの全体発表会で、博士後期課程及び4年制博士課程の学生は博士論文研究の発表を行う。このことを通して、異分野の研究手法等を学び合う場をつくる。

※4年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者については、本頁の修了要件とは異なる点があるので、P5の「課程・学年・入学学期別 履修要件・修了要件 解説図」を参照すること。

(2) 本プログラムの修了要件

本プログラムでは、修士課程(博士前期課程)修了時点のQualifying Examination(QE)並びに博士後期課程修了時のFinal Examination(FE)の2回の審査を行うとともに、各学年進学时には履修状況を確認し、所属専攻の研究活動と並行した本プログラムの活動が円滑かつ計画的に進められているかを、論文指導教員との連絡の下に確認し、必要に応じた履修・研究指導を行う。QE、FE等については、以下の内容とする。

■ 修士課程修了時 資格審査 (QE:Qualifying Examination)

修士課程修了時の QE では、「単位要件」、「学振要件」、「博士課程進学の確認」によって考査する。ただし、4 年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者については、上記に加え、「発表要件」も加味して可否を判定する(「課程・学年・入学学期別 履修要件・修了要件 解説図」を参照)。

- ・**単位要件** : 概論(必修)4単位と、特論(選択必修)と実習(選択必修)から6単位以上の、合計10単位以上取得しなければならない。※
- ・**学振要件** : 日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC1 もしくは DC2)に申請しなければならない。申請後すぐに、申請書及び採否通知PDFを提出すること。※
- ・**博士課程進学の確認** : 面接により博士後期課程進学の確認を行う。※

■博士課程修了時 修了審査 (FE:Final Examination)

博士後期課程終了時のFEでは、「単位要件」、「発表要件」、「学振要件」によって考査する。この考査に加え、所属専攻における博士論文の審査に合格した場合、「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了証」が授与されるとともに、所属専攻が授ける博士の学位記に「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了」という認定が付記される。

- ・**単位要件** : 概論(必修)4単位と、特論(選択必修)6単位以上と、実習(選択必修)6単位以上の、合計16単位以上取得しなければならない。※
- ・**発表要件** : 博士後期課程在籍期間中の各学期末に、指定された回数の博論研究進捗発表を、全体発表会時に行うこと。※
- ・**学振要件** : 日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC2)に申請しなければならない。申請後すぐに、申請書及び採否通知PDFを提出すること。※

□日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC1、DC2)への申請

DC に採択されるまで継続して応募し、採択された場合においても本プログラムに引き続き在籍することが必要である。DC に応募しなかった場合には、理由書等で経緯を明らかにすること。理由によっては、プログラム履修の中断や経済的支援(卓越 RA)の支給停止を行う場合がある。

□全体発表会における実習発表と博論研究進捗発表

年2回、各学期末に、全体発表会を行う。全体発表会は、実習発表と博論研究進捗発表からなる。実習を履修した者は、実習発表を行うことによって単位が授与される。さらに、博士課程在学中は6回から8回の博論研究進捗発表を行わなければならない。なお、博論研究進捗発表は、P1やP2のように表記する(Presentation の略)。※

※4年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者については、本頁の修了要件とは異なる点があるので、P5の「課程・学年・入学学期別 履修要件・修了要件 解説図」を参照すること。

その他

- ・ 本プログラムが文科省や大学等から依頼される調査への協力と、本プログラムが指定する活動への参加を履修の条件とする。これらの調査への協力、活動への参加の状況によって、経済的支援の給付額の減額等の措置を行う場合がある。
- ・ 本プログラムに届け出た情報に変更が生じた場合は、速やかに申し出ること。
- ・ 本プログラムは修士博士一貫プログラムであるが、博士修了に至らず、途中辞退する場合には、その事由が生じた際に速やかに申し出、辞退届を提出すること。なお、辞退理由やその申し出時期により、支給した卓越 RA 費の返還を求めることがある。

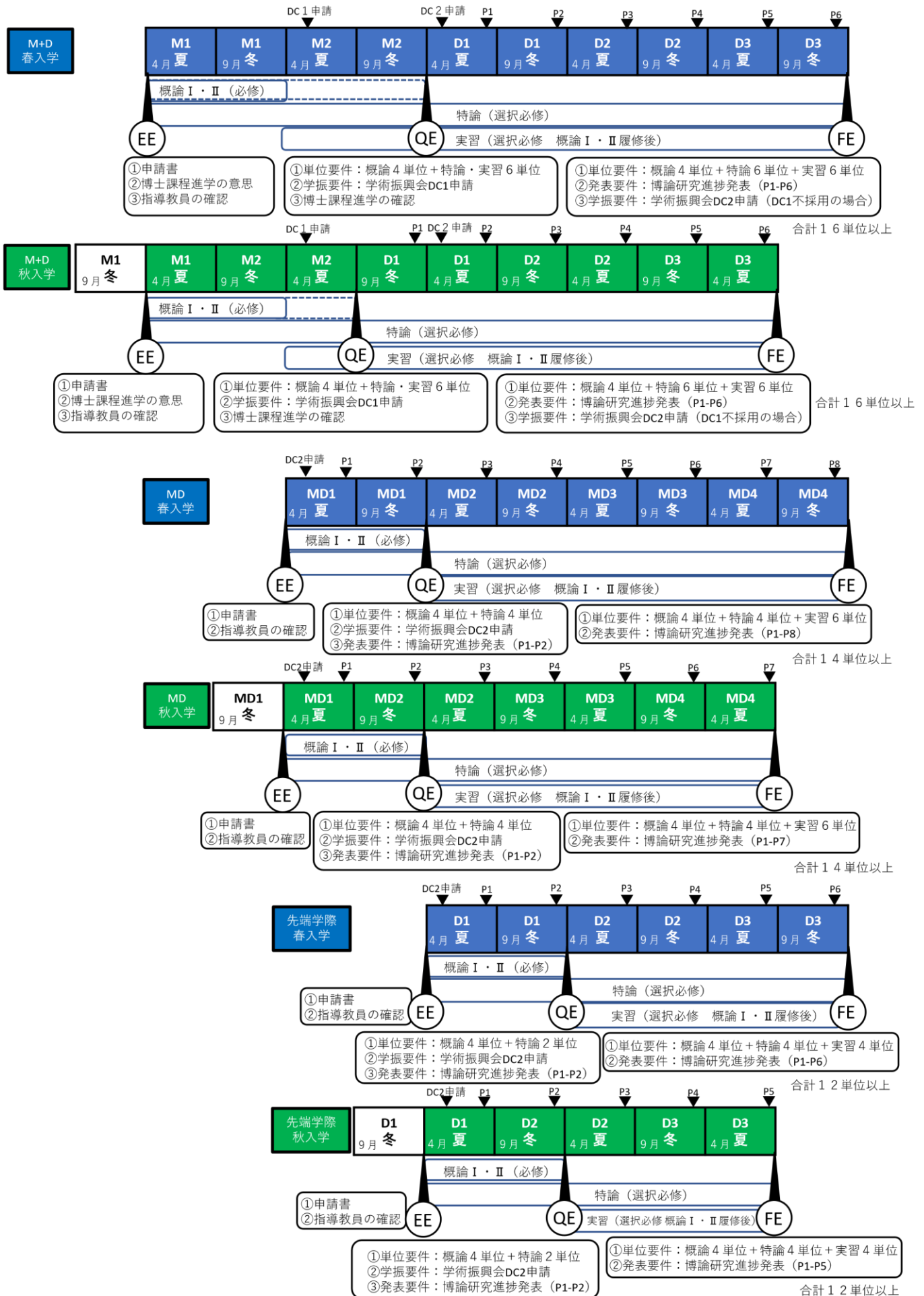
(3) 課程・学年と履修要件及び修了要件

所属する専攻や課程、入学時期によって、履修要件・修了要件が異なる。これをまとめた図「課程・学年・入学学期別 履修要件・修了要件 解説図」を次頁に掲げるので、各自の該当する要件を確認すること。

(4) オンライン授業

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、2020年度はオンライン授業を活用することを予定している。ガイダンス等で受講準備等を進め、WINGS-GLAFSからの通知あるいはUTASの科目情報を確認して受講すること。

課程・学年・入学学期別 履修要件・修了要件 解説図



5. 経済的支援(卓越RA)

経済的支援(卓越RA)に関わる所定の様式にて申請した者に対し、選考委員会で審査し、給付額を決定し、卓越RA(下記、卓越RA実施要領抜粋参照)として委嘱する。博士前期課程(修士課程)2年次のコース生には月額6万円を上限に、博士後期課程及び4年制博士課程のコース生には月額18万円を上限に支給する。

支給にあたっては、毎月「卓越リサーチ・アシスタント研究業務終了報告書」を所属研究室の指導教員に報告の上、指導教員の印が押された報告書をプログラム・コーディネーター宛に指定した期日までに提出すること。手続きの詳細は本プログラム卓越RAの募集要項(入学時配布資料)に定める。

なお、本経済的支援(卓越RA)の受給に関しては、以下の点を十分注意すること。

1. 卓越RAは対価型で、いわゆる給付型の奨励金とは異なる。
2. 卓越RAでの経済的支援の支給を希望するコース生は、日本学術振興会特別研究員(DC1・DC2)に応募することを条件とする。
3. 修士課程2年次のQE面接において、博士後期課程への進学予定を確認し、進学断念が確認された時点で、卓越RAでの経済的支援は停止する。
4. 他のフェローシップや奨学金との重複については、合計額の上限が規定されており、RAの支給額を減額されることがある。詳細は卓越RAの募集要項で確認すること。
5. 卓越RAは、税法上、給与所得として課税されるため、毎月の所得税を源泉徴収した上で支給する。そのため、年末調整や確定申告を行う必要がある。
6. 1月から12月までの年収が一定の金額を超える場合、所得税法上の扶養控除を受けることができないことや、保護者や配偶者等の健康保険の被扶養者から外れることがあるので、保護者や配偶者等と予め十分に相談しておくこと。なお、当該年収に応じて、次年度に住民税が課税される場合もある。
7. 本人の意思により年度の途中においても受給の辞退及び支給額の減額を申し出ることができる。
8. 本人の履修状況を含む総合評価により、年度の途中においても支給額を減額することがある。
9. 上記記載の限度額は今年度の規定であり、来年度以降は本プログラムの予算状況により変更することがある。

——「東京大学卓越リサーチ・アシスタント(卓越RA)実施要領」より以下抜粋——

(目的)

第1条 この要領は、東京大学における独創性及び高度な専門性を要する研究プロジェクト等の業務遂行に、選抜された特に優秀な大学院学生を参画させて、研究活動の効果的推進、研究体制の充実及び学術領域を俯瞰する能力の育成を図るための卓越リサーチ・アシスタント(卓越RA)に関し、必要な事項を定めるものである。

(委嘱する研究業務)

第2条 卓越RAは、前条に掲げる目的のため、研究活動に有益な研究業務に従事するものとする。

2 卓越RAに委嘱された学生は、採択された研究業務を適正に遂行しなければならない。なお、その遂行にあたっては、授業等に支障のない範囲で行うものとする。

—中略—

(研究業務の実施確認)

第7条 卓越RAに委嘱された者は、研究業務終了時に卓越リサーチ・アシスタント研究業務終了報告書(様式2)を各プログラム等の代表者に提出するものとする。

6. 注意事項

- (1) 受付期間内に必要書類が完備しない申請は、受理しない。
- (2) 申請手続完了後は、どのような事情があっても、書類の変更は認めない。
- (3) 事情により、申請手続等について変更することがある。変更があった場合は、改めて通知する。
- (4) 申請に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報については、①履修者選抜(申請処理、選抜実施)、②採用者発表、③採用手続業務を行うために利用する。また、同個人情報は、採用者のみ①学務関係(学籍、修学等)、②学生支援関係(就職支援、授業料免除申請等)に関する業務を行うために利用する。
- (5) 申請書における記載内容について虚偽の記載をした者は、採用後においても遡ってコース生であることを取り消すことがある。
- (6) WINGS-GLAFSは、2019年度までに入学した学生を対象とするリーディング大学院GLAFSと共同のカリキュラムで行われるが、制度に異なる点があるため、本年度に応募する者は、本募集要項に記載された制度に依ることを理解すること。
- (7) 履修登録・修正及び授業料免除の手続きは、所属専攻の手続きに則って各自行う。学期末に遡って履修登録を修正することが難しい学科があるため、学期初めの修正期間に十分確認すること。当プログラムでは履修登録・修正を行うことができないため注意すること。

7. 2020年度年間スケジュール(予定)

2020年 4月

3日(金)～10日(金) 2020年度コース生申請受付

4日(土) 募集ガイダンス

11日(土) 面接／選抜結果の通知

17日(金) 採用手続締切

5月

中旬 日本学術振興会・特別研究員申請

＊所属研究科の学内締切に留意し、対象学年の者は必ず応募すること

とくに、電子申請用ID・パスワードの発行は4月締切の場合があるので注意すること

7月

11日(土) 夏学期 全体発表会(実習発表・博論研究進捗発表)

9月

26日(土) 冬学期 ガイダンス・実習説明

2021年 1月

30日(土) 冬学期 全体発表会(実習発表・博論研究進捗発表)

3月

22日(月) 修了式

中旬 翌年度 経済的支援(卓越RA) 申請受付

8. 2020年度シラバス(抜粋)

2020 年度カリキュラム一覧								
科目 番号	開講科目名称・講義別名	単 位 数	開講 区分	主担 当 教員 名	曜日	時限 (開始・終了)	必修 選択必修	開講日・ 講義室名・その他特記事項
講義(必修)								
3799- 220	高齢社会総合研究学概論Ⅰ 高齢者の体と心: 老い とつきあう	2	夏学期 (S1S2)	飯島	水	5 限 16:50-18:35	必修	4/15～7/15 本郷: 工学部 11 号館ホール
3799- 221	高齢社会総合研究学概論Ⅱ 高齢社会のリ・デザイン	2	冬学期 (A1A2)	大月	水	5 限 16:50-18:35	必修	9/29～1/5 本郷: 工学部 11 号館ホール
講義(選択必修:6 単位以上取得※)								
3799- 222	高齢社会総合研究学特論Ⅰ	2					選択必修	(隔年開講)
3799- 223	高齢社会総合研究学特論Ⅱ 超高齢社会の住まい・まちづくり	2	夏学期 (S1)	大月	火	6 限-7 限 18:45-22:25	選択必修	4/7～6/2 本郷: 工学部 14 号館 141 講義室
3799- 224	高齢社会総合研究学特論Ⅲ 人生 100 年時代のライフコース論	2	夏学期 (S1S2)	菅原	木	5 限 16:50-18:35	選択必修	4/9～7/9 本郷: 工学部 8 号館 722 号室
3799- 225	高齢社会総合研究学特論Ⅳ 高齢社会のケア・サポート・システム	2	夏学期 (S2)	飯島 孫	火	5 限-6 限 16:50-20:30	選択必修	6/9～7/14 本郷: 工学部 8 号館 722 号室
3799- 226	高齢社会総合研究学特論Ⅴ 地域農業マネジメント	2	冬学期 (A2)	八木	火 金	5 限 16:50-18:35	選択必修	11/24～(週 2 回) 弥生: 農学部 1 号館 10 番講義室 (予定)
3799- 227	高齢社会総合研究学特論Ⅵ 高齢者法	2	冬学期 (A1A2)	樋口 高橋	木	3 限 13:00-14:45	選択必修	9/24～12/17 本郷: 工学部 8 号館 722 号室
3799- 228	高齢社会総合研究学特論Ⅶ	2					選択必修	
3799- 229	高齢社会総合研究学特論Ⅷ	2					選択必修	
3799- 230	高齢社会総合研究学特論Ⅸ	2					選択必修	
3799- 231	高齢社会総合研究学特論Ⅹ ジェロントテクノロジー	2	冬学期 (A1A2)	檜山 二瓶	金	5 限-6 限 16:50-20:30	選択必修	9/25～ 本郷: 工学部 8 号館 722 号室
3799- 232	高齢社会総合研究学特論Ⅺ	2					選択必修	(隔年開講)
3799- 233	高齢社会総合研究学特論Ⅻ	2					選択必修	
実習(選択必修:6 単位以上取得※)								
3799- 234	高齢社会総合研究学実習Ⅰ	2	通年	各教 員	土	集中	選択必修	本郷: 工学部 8 号館 722 号室他
3799- 235	高齢社会総合研究学実習Ⅱ	2	通年	各教 員	土	集中	選択必修	同上
3799- 236	高齢社会総合研究学実習Ⅲ	2	通年	各教 員	土	集中	選択必修	同上
3799- 237	高齢社会総合研究学実習Ⅳ	2	通年	各教 員	土	集中	選択必修	同上
3799- 238	高齢社会総合研究学実習Ⅴ	2	通年	各教 員	土	集中	選択必修	同上
3799- 239	高齢社会総合研究学実習Ⅵ	2	通年	各教 員	土	集中	選択必修	同上
3799- 240	高齢社会総合研究学実習Ⅶ	2	通年	各教 員	土	集中	選択必修	同上
3799- 241	高齢社会総合研究学実習Ⅷ	2	通年	各教 員	土	集中	選択必修	同上
3799- 259	高齢社会総合研究学演習Ⅹ	1	通年	各教 員	土	集中	選択必修	同上

※4年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者についてはP3-5で修了要件を確認すること

科目名:高齢社会総合研究学概論Ⅰ(高齢者の体と心:老いときあう)

1.授業概要

わが国では、団塊世代の高齢化と出生率の低下により、今から 11 年後の 2030 年には 65 歳以上の高齢者が人口の約 1/3 を占め、75 歳以上の「後期高齢者」も倍増して人口の約 1/5 を占める超高齢社会が到来する。また、韓国、シンガポールも、日本にやや遅れて 2040 年には高齢者人口が 1/3 を超え、中国でも 2060 年には高齢者人口が約 1/3 に達することが予測されている。こうした急激な人口構成の変化に対応し、医療、介護、社会保障、居住環境、社会的インフラ、就業形態をはじめとした社会システムを組み替える必要性が目前に迫っている。この社会全体の変化を見通し、超高齢社会にむけて社会システムをリ・デザインする取り組みを直ちに開始し、若い人、現役世代、高齢者の誰もが、人間としての尊厳と生きる喜びを享受しながら快活に生きて行ける、活力ある超高齢社会の実現に向けて挑戦していかなければならない。本授業ではこれらの課題に対して、主として高齢者の体と心について、国内のトップ講師からの講義を受け、老いときあうとはどういうことであるのか、その基礎を分野横断的に学ぶことが狙いである。本講義を通じて、高齢者の健康寿命を延ばし、経済活動・地域活動への参加を促すことによって高齢者が快活に暮らし、社会の支え手となって活躍する活力ある超高齢社会について考えていく。

2. 授業内容

- ・学期 夏学期(S1 S2)
- ・単位 2 単位
- ・時限 水曜 5 限(16:50～18:35)
- ・評価 出席状況及び学期末のレポート提出
- ・教員 飯島勝矢(未来ビジョン研究センター)
- ・教室 本郷キャンパス 工学部 11 号館ホール

3.授業日程

- 4/15 第 1 回 ジェロントロジー総論(飯島勝矢 未来ビジョン研究センター)
- 4/22 第 2 回 高齢期の社会関係と well-being(菅原育子 未来ビジョン研究センター)
- 5/7 第 3 回 老化と生物学 疾病・障害とヘルスプロモーション(孫輔卿 未来ビジョン研究センター)
- 5/13 第 4 回 教育と SDGs(北村友人 教育学研究科)
- 5/20 第 5 回 人生 100 年時代の農学(八木洋憲 農学生命科学研究科)
- 5/27 第 6 回 身体機能を補う福祉工学機器(伊福部 達 高齢社会総合研究機構)
- 6/3 第 7 回 移動支援機器の利活用(二瓶美里 新領域創成科学研究科)
- 6/10 第 8 回 認知症家族介護の臨床社会学(井口高志 人文社会系研究科)
- 6/17 第 9 回 人生の最終段階のケア(山本則子 医学系研究科)
- 6/24 第 10 回 ケアの当事者学(上野 千鶴子 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN))
- 7/1 第 11 回 転倒・リハビリテーション(田中敏明 高齢社会総合研究機構)
- 7/8 第 12 回 リビングラボ(秋山弘子 高齢社会総合研究機構)
- 7/15 第 13 回 身体・認知機能を活かしたコミュニティビジネス(戸枝陽基 社会福祉法人むそう)

4.その他

科目名:高齢社会総合研究学概論Ⅱ(高齢社会のリ・デザイン)

1.授業概要

わが国では、団塊世代の高齢化と出生率の低下により、今から 11 年後の 2030 年には 65 歳以上の高齢者が人口の約 1/3 を占め、75 歳以上の「後期高齢者」も倍増して人口の約 1/5 を占める超高齢社会が到来する。また、韓国、シンガポールも、日本にやや遅れて 2040 年には高齢者人口が 1/3 を超え、中国でも 2060 年には高齢者人口が約 1/3 に達することが予測されている。こうした急激な人口構成の変化に対応し、医療、介護、社会保障、居住環境、社会的インフラ、就業形態をはじめとした社会システムを組み替える必要性が目前に迫っている。この社会全体の変化を見通し、超高齢社会にむけて社会システムをリ・デザインする取り組みを直ちに開始し、若い人、現役世代、高齢者の誰もが、人間としての尊厳と生きる喜びを享受しながら快活に生きて行ける、活力ある超高齢社会の実現に向けて挑戦していかなければならない。本授業ではこれらの課題に対して、主として社会システムおよび、それを支える居住環境システムについて、国内のトップ講師からの講義を受け、高齢社会のリ・デザインについて分野横断的に学ぶことが狙いである。本講義を通じて活動レベルが低下して介助が必要になった後も、施設収容により対応するのではなく、住み慣れた地域社会の中で、できるだけ自立的に活力を維持しながら暮らせる社会システム及び居住環境システムについて考える。

2. 授業内容

- ・学期 冬学期(A1 A2)
- ・単位 2 単位
- ・時限 水曜 5 限(16:50～18:35)
- ・評価 出席状況及び学期末のレポート提出
- ・教員 大月敏雄(工学系研究科)・松田雄二(工学系研究科)
- ・教室 本郷キャンパス 工学部 11 号館ホール

3.授業日程

- 9/29 第 1 回 超高齢社会における地域と住まい
- 10/6 第 2 回 21 世紀の医療・介護・福祉のかたちを考える
- 10/13 第 3 回 超高齢社会の人間環境学
- 10/20 第 4 回 住まいをめぐる社会学
- 10/27 第 5 回 高齢期の健康づくり:公衆衛生学の視点から
- 11/10 第 6 回 高齢社会に必要な法制度
- 11/17 第 7 回 高齢者の移動を支える
- 11/24 第 8 回 高齢社会を支える知能ロボティクス
- 12/1 第 9 回 ジェロンテクノロジー
- 12/8 第 10 回 人口減少社会における年金と社会保障財政
- 12/15 第 11 回 超高齢社会とビジネスの展開
- 12/22 第 12 回 文理を超えた超高齢社会の課題解決
- 1/5 第 13 回 超高齢社会における外出環境

4.その他

- ・講義の順番や内容については変更する可能性がある。

科目名:高齡社会総合研究学特論Ⅱ(超高齡社会の住まい・まちづくり)

1.授業概要

超高齡社会の諸課題に対応した地域社会の物的・社会的生活環境について、多面的に講義を行う。

2. 授業内容

- ・学期 夏学期(S1 S2)
- ・単位 2単位
- ・時限 火曜6・7限(まちづくり大学院の開講時間にあわせ、6限は18:40～20:05、7限は20:10～21:35)
- ・評価 出席日数及び課題レポートにより総合的に評価する
- ・教員 大月敏雄(工学系研究科)
- ・教室 本郷キャンパス 工学部14号館141講義室

3.授業日程

- 4/7 第1回 ガイダンス・高齡者の居住環境1(大月敏雄 工学系研究科)
- 第2回 高齡者の居住環境2(大月敏雄 工学系研究科)
- 4/14 第3回 超高齡社会の交通計画1(大森宣暁 宇都宮大学)
- 第4回 超高齡社会の交通計画2(大森宣暁 宇都宮大学)
- 4/21 第5回 ユニバーサルデザインとまちづくり(秋山哲男 中央大学研究開発機構)
- 第6回 道路のユニバーサルデザイン(稲垣具志 日本大学)
- 4/28 第7回 ユニバーサルデザインと身近な環境・建築(高橋儀平 東洋大学)
- 第8回 高齡者・障害者の居住と施設(松田雄二 工学系研究科)
- 5/12 第9回 高齡期の住まいと地域1(李ヨンゲン 工学系研究科)
- 第10回 高齡期の地域居住(西野亜希子 工学系研究科)
- 5/19 第11回 高齡期の住まいと地域2(李ヨンゲン 工学系研究科)
- 第12回 住宅改修の概要と効果(西野亜希子 工学系研究科)
- 5/26 第13回 転倒を防ぐ住まいと地域環境(西野亜希子 工学系研究科)
- 第14回 高齡者の住み続けられる団地再生(奥茂謙仁 市浦ハウジング&プランニング)
- 6/2 第15回 高齡者・聴覚障害者の聞こえと音環境(船場ひさお 横浜国立大学、フェリス学院大学)
- 第16回 視覚障害者の見え方と歩行環境(松田雄二 工学系研究科)

4.その他

- ・まちづくり大学院と共同で開講する。
- ・講義の順番や内容、担当講師については変更する可能性がある。

科目名:高齢社会総合研究学特論Ⅲ (人生100年時代のライフコース論)

1.授業概要

人生100年時代の到来にあたって「生きる」「老いる」「死ぬ」をめぐる現実が変化しつつある。
長期化する人生の実態とその課題について、心理学、哲学、教育学、社会学の幅広い観点から議論する。

2. 授業内容

- ・学期 夏学期(S1 S2)
- ・単位 2単位
- ・時限 木曜5限(16:50～18:35)
- ・評価 通常授業への参加と、期末レポート
- ・教員 菅原育子(未来ビジョン研究センター)
- ・教室 本郷キャンパス 工学部8号館722号室

3.授業日程

- 4/9 第1回 人生100年どう生きる？(秋山弘子 未来ビジョン研究センター)
- 4/16 第2回 超高齢社会におけるサクセスフルエイジング(榎藤恭之 大阪大学大学院人間科学研究科)
- 4/23 第3回 高齢期の家族、友人、地域とのつながり(小林江里香 東京都健康長寿医療センター研究所)
- 4/30 第4回 成人期から高齢期にかけた発達と学習(岩崎久美子 放送大学教養学部)
- 5/14 第5回 楽しさベースの<ちいさな社会>と人々の<学び>(牧野篤 教育学研究科)
- 5/21 第6回 高齢者のこころの発達とケア(高橋美保 教育学研究科)
- 5/28 第7回 人生100年時代のキャリアを考える
(今城志保 株式会社リクルートマネジメントソリューションズ組織行動研究所)
- 6/4 第8回 超高齢社会における課題解決ビジネス(斉藤徹 株式会社電通・シニアプロジェクト)
- 6/11 第9回 老いと病いの現象学(榊原哲也 東京女子大学)
- 6/18 第10回 高齢期の well-being:社会的環境と物理的環境の観点から(高山緑 慶應義塾大学理工学部)
- 6/25 第11回 ポスト診断時代における認知症の社会学の課題(井口高志 人文社会系研究科)
- 7/2 第12回 長寿時代のエンドオブライフ・ケア:臨床倫理学の視点から(会田薫子 人文社会系研究科)
- 7/9 第13回 長寿時代の生きると老いるを考える(まとめ)(菅原育子 未来ビジョン研究センター)

4.その他

科目名:高齡社会総合研究学特論Ⅳ(高齡社会のケア・サポート・システム)

1.授業概要

本講義では、より早期からの健康維持～フレイル(虚弱)予防の観点から、要介護状態になっても住み慣れた地域で住み続けられるシステム構築に至るまで、高齡者の特性や生活を理解し、体系的に高齡社会における高齡者へのケア・サポート・システムを学ぶ。本講義は高齡者の医学的な特徴、その特徴を踏まえた予防からケア・サポート、そして高齡者を支える医療・介護を中心とした社会システムについて、最新の知識や技術を理解し、実社会に役立つ手法を考える。

2. 授業内容

- ・学期 夏学期(S2)
- ・単位 2単位
- ・時限 水曜5・6限(16:50～20:30)
- ・評価 出席日数及び課題レポートの内容により総合的に評価するが、出席を重視する。
- ・教員 飯島勝矢(未来ビジョン研究センター・高齡社会総合研究機構)・孫輔卿(高齡社会総合研究機構)
- ・教室 本郷キャンパス 工学部8号館722号室

3.授業日程

- 6/9 第1回【ヘルスケア全般】(飯島勝矢 未来ビジョン研究センター)
- 第2回【食・健康】オーラル(平野 浩彦 東京都健康長寿医療センター研究所)
- 6/16 第3回【食・健康】食・産学連携①(孫輔卿 高齡社会総合研究機構)
- 第4回【食・健康】食・産学連携②(高瀬麻以 工学系研究科)
- 6/23 第5回【食・健康】社会参加の場での身体活動(田中友規 工学系研究科)
- 第6回【ケア】看護・地域包括ケア(秋山正子 白十字訪問看護ステーション)
- 6/30 第7回【ケア】老年症候群・認知症(木棚究 医学系研究科)
- 第8回【ケア】認知症に優しい街づくり(五十嵐歩 医学系研究科)
- 7/7 第9回【ケア】高齡者の転倒・骨折(今枝秀二郎 工学系研究科、内山瑛美子 東京工業大学)
- 第10回【ケア】看護・法制度(宮島 俊彦 岡山大学)
- 7/14 第11回【ケア】在宅医療(山中 崇 医学系研究科)
- 第12回【総まとめ・総合討論】(飯島勝矢 未来ビジョン研究センター、山中 崇 医学系研究科)

4.その他

科目名:高齢社会総合研究学特論Ⅴ (地域農業マネジメント)

1.授業概要

この講義では、農業がおこなわれている地域に注目し、地域の実態に即して実践的に問題解決をはかるために必要な知識および手法を身につける。すなわち、人口減少・高齢化社会の中で、地域農業をいかにしてマネジメント(計画, 経営, 戦略策定)するかについて学ぶ。各講義は、都市農業、中山間地域農業といった「地域」別に構成される。そして、それぞれの地域において、1)土地利用や最適配置の理論的枠組み、関連諸分野における研究および議論の所在、2)行政、流通機構、農業経営に関する背景および制度、3)ヒアリングや統計、GIS(地理情報システム)を用いた実態分析の具体的な方法について、順を追って学ぶ。すなわち、理論、社会的背景と制度、分析方法の3側面から地域農業の実態を捉える。以上を通じて、農業・農村に関する「現場感覚」と「分析力」とを磨き、地域農業を題材として、さまざまな問題解決に役立てられる人材となってもらいたい。

2. 授業内容

- ・学期 冬学期(A2, 週2回)
- ・単位 2単位
- ・時限 火曜5限, 金曜5限(16:50-18:35)
- ・評価 出席票と試験
- ・教員 八木 洋憲(大学院農学生命科学研究科)
- ・教室 弥生キャンパス 農学部1号館 10番講義室(耐震工事のため「農学部プレハブ棟」となる可能性)

3.授業日程

※初回:11/24(金)を予定. 順序は入れ替わることがある. スケジュール・休講は授業内で連絡する.

- 第1回 (1)ガイダンス・地域の捉え方
- 第2回 (2)農業立地論
- 第3回 (3)都市の農地制度と農家の対応
- 第4回 (4)都市農業経営の経営戦略
- 第5回 (5)都市農業経営の経営分析
- 第6回 (6)中山間地域の制度と農家の対応
- 第7回 (7)農地の生産性の把握
- 第8回 (8)農地保全の可能性の評価
- 第9回 (9)農業法人・組織の分析
- 第10回 (10)水田経営における規模・組織・農地集積
- 第11回 (11)農業経営の情報管理と組織 (進捗により実施)
- 第12回 (12)海外の地域農業(イギリス)
- 第13回 (13)海外の地域農業(アメリカ) (進捗により実施)

4.その他

科目名:高齢社会総合研究学特論VI(高齢者法)

1.授業概要

高齢者に関わる法制度や政策課題について基礎を学ぶとともに、高齢者法の観点について、講義およびディスカッションを行う。

2. 授業内容

- ・学期 冬学期(A1 A2)
- ・単位 2単位
- ・時限 木曜3限(13:00～14:45)
- ・評価 レポートと授業での対応による
- ・教員 樋口範雄、高橋脩一
- ・教室 本郷キャンパス 工学部8号館722号室

3.授業日程

- 9/24 第1回 高齢者法の概要と倫理的配慮
- 10/1 第2回 医療上の決定
- 10/8 第3回 在宅での医療
- 10/15 第4回 高齢者への医療給付制度・介護保険制度など
- 10/22 第5回 高齢者の住まい、特養・療養施設など
- 10/29 第6回 高齢者の住宅問題
- 11/5 第7回 年齢による差別
- 11/12 第8回 成年後見・財産管理と信託・相続
- 11/19 第9回 年金など経済的基盤
- 11/26 第10回 高齢者と職業・社会参加
- 12/3 第11回 情報化の進展と高齢者
- 12/10 第12回 高齢者と移動 交通
- 12/17 第13回 高齢者虐待・高齢者と犯罪

4.その他

- ・初回は、9月24日(木)を予定。

科目名:高齢社会総合研究学特論 X(ジェロンテクノロジー)

1.授業概要

ジェロンテクノロジー(Gerontechnology)とは、高齢者を支援するためのシステムを扱う研究分野である。本科目では、高齢者の生活や社会活動などを支援するための情報・機械システムについて、オムニバス形式で講義を行う。本講義の内容は次の通りである。

- ・衰えた運動器・感覚器の機能補助を行うための運動支援・認知機能支援システム
- ・日進月歩での発展が著しい情報機器を用いた支援手法と、それら機器の使用の支援手法
- ・高齢者就労など社会的課題に対応するための仕組みとシステム

2. 授業内容

- ・学期 冬学期(A1 A2)
- ・単位 2単位
- ・時限 金曜 5・6 限(16:50-20:30)
- ・評価 出席とレポート
- ・教員 檜山敦(先端科学技術研究センター)、二瓶美里(新領域創成科学研究科)
- ・教室 本郷キャンパス 工学部 8 号館 722 号室

3.授業日程

※開講日:09/25(金)を予定。以下は講義予定の内容(2019 年度実績)。講義順序、講師は入れ替わることがある。

第1回 ※講義ガイダンスを数分行います

5 限:医療・介護・健康分野で期待されるサービスロボティクス(浅間一 工学系研究科)

6 限:高齢者支援技術における国内外の動向・当事者との技術開発

(井上剛伸 国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

第2回 5 限:感覚・コミュニケーションを支援する福祉工学(伊福部達 北海道大学、東京大学、北海道科学大学)

6 限:コミュニケーションロボットの現場での活用(中村美緒 新領域創成科学研究科)

第3回 5 限:高齢者就労における ICT の役割(廣瀬通孝 情報理工学系研究科)

6 限:アクティブシニアの ICT 活用とユニバーサルデザイン(関根千佳 同志社大学、株式会社ユーディット)

第4回 5 限:元気高齢者のための新しい社会参画技術(小林正朋 IBM 東京基礎研究所)

6 限:高齢者の遠隔就労・社会参加とテレプレゼンス技術(檜山敦 先端科学技術研究センター)

第5回 5 限:高齢者のための福祉・リハビリテーション工学(田中敏明 先端科学技術研究センター)

6 限:臨床現場におけるリハビリ工学の実際(吉田直樹 リハビリテーション科学総合研究所)

第6回 5 限:高齢者の農作業のための軽労化支援スーツ(田中孝之 北海道大学)

6 限:高齢者の行動計測・見守りモニタリング(森武俊 医学系研究科)

第7回 5 限:認知症高齢者の情報支援(二瓶美里 新領域創成科学研究科)

6 限:高齢社会のモビリティ構築に向けて(鎌田実 新領域創成科学研究科)

第8回 5 限:福祉機器実用化における課題 ～福祉ロボットなどの実例からわかること(手嶋教之 立命館大学)

6 限:5 限:高齢者支援機器と事業モデルー技術とニーズ、政策、社会をつなぐー(後藤芳一 日本福祉大学)

4.その他

科目名:高齢社会総合研究学実習Ⅰ～Ⅷ, 高齢社会総合研究学演習Ⅹ

1.授業概要

具体的特定課題を実社会の中で解くために必要な社会規範や経済の理解、現場の人間関係への対応、社会に対する説得力あるプレゼン能力等によって構成される社会接続力修得のための、選択必修の実習である。科目名称は実習であるが、これは、旧 GLAFS の演習科目名称との差異を強調するためであり、本カリキュラムでは本科目は、演習科目として扱う。本教育プログラムは、医工連携研究をベースとしながら多領域連携力を育むプログラムであるが、本科目においては、実際の社会実装の段階においては必ず文理融合などのさらなる領域連携が求められることから、多領域連携力の涵養を図るために設けられている。

フレイル予防研究(老年医学)、ジェロテック研究(機械情報系工学)、ハビタット研究(建設系工学)を3本柱としつつも、IOG 関係教員が携わっている幅広い実践領域、複合領域におけるフィールドの中で設定する具体の課題解決現場のリアリティを体験的に学ぶことを目的とする。

専門家である担当者が、履修者の専門領域の個別性、所属研究室の研究スタイルを尊重しながら、履修者に伴走し、ジェロントロジーに関わる他分野の専門領域の研究・実践に関わる方法論を伝授する。主担当はプログラム担当教員が務めるが、IOG 組織から特任研究員、ジェロネット、自治体派遣研究員、外国からの研究者、GLAFS のアルムナイ等々を積極的にインボルブし、複数の実習を履修することを通して、マルチスケールの生活場面への研究成果の社会接続の技量を体験的に学ぶ。集中講義形式で、選択肢の高いカリキュラムとする。

各学期はじめのガイダンスにて、複数の実習プログラムが提示されるので、その中から選択的に履修する。

2. 授業内容

- ・学期 通年
- ・単位 2 単位(演習Ⅹは 1 単位)
- ・時限 集中
- ・評価 実習における活動・発表状況による
- ・教員 各教員
- ・教室 本郷キャンパス 工学部 8 号館 722 号室ほか、各スタジオ担当教員の指示による

3.授業日程

※各スタジオの開講日及び開講場所は、各スタジオの担当教員の指示によるが、下記の夏学期、冬学期それぞれの合同説明会と合同発表会には、必ず参加すること(曜日に注意すること)。

<夏学期>

4/4 土 合同説明会・スタジオ決定@722

7/11 土 合同発表会@701,702,722

<冬学期>

9/26 土 合同説明・スタジオ決定@722

1/30 土 合同発表会@701,702,722

4.その他

- ・本科目は、高齢社会総合研究学概論Ⅰ及び同Ⅱを履修済みの者のみ、受講可能とする。

令和 2 (2020) 年度 東京大学国際卓越大学院教育プログラム (WINGS)
「高齢社会総合研究国際卓越大学院 (WINGS-GLAFS)」
World-leading Innovative Graduate Study Program in Gerontology
: Global Leadership initiative for an Age-Friendly Society (WINGS-GLAFS)
コース生 履修申請書

1. 申請者情報等

(フリガナ) 氏 名		男 女
国 籍		
生 年 月 日		

2020 年 4 月時点 の所属専攻名	東京大学大学院 研究科 専攻 修士課程 ・ 4 年制博士課程 ・ 博士後期課程 1 年次 ※該当するものに○をつけてください。 (入学年月: 年 月)			
学 籍 番 号				
2020 年 4 月時点の 指導教員	専攻名		氏 名	
	E-mail			
研 究 課 題				
卓越 RA 受給	希望する ・ 希望しない ※どちらかに○をつけてください			
他の国際卓越大学院 WINGS にも申請している場合は、申 請先を記入				
現 住 所	〒 電話: E-mail:			
学 歴 (留学も含む)	年 月 大学 学部 学科 卒			
	2020 年 月 東京大学大学院 研究科 専攻 入学			
社会人経験	有 ・ 無 ※社会人: 現に職に就いている者、入学のために退職した者、企業等を退職した者若しくは主婦を指す			
職 歴 (期間、所属、職名、主な職 務を記載/インターンシッ プを含む)				

2. これからの研究計画

申請者氏名 _____

(図表を含めることも可。10 ポイント以上の文字で記入。1 ページ以内とし様式の改変・追加は不可)

以下の点についての記述をできるだけ含め簡潔に記述すること。

- ① これまでの研究背景とその問題点について参考文献をあげて記述してください。
- ② 研究目的、研究方法、研究内容について記述してください。
- ③ 本研究の特色、着眼点、独創的な点、本研究が完成した場合のインパクトなどについて記述してください。
- ④ どのような計画で、何をどこまで明らかにしようとするのか、具体的に書いてください。

3. 研究と高齢社会の諸問題の解決との関連

申請者氏名 _____

(10 ポイント以上の文字で記入。1 ページ以内とし様式の改変・追加は不可)

自分の研究が、高齢社会の課題解決にどのように関連するのかについて記述してください。

4. 本プログラムに参加する動機と将来のキャリアについての構想

申請者氏名

(10 ポイント以上の文字で記入。1 ページ以内とし様式の改変・追加は不可)

本プログラムを志望する理由、博士課程修了後のキャリア（産、学、官など）の構想について記述してください。（高専社会特有の課題解決に向けて、将来のキャリアの中でどのように貢献したいと考えているのかということについても言及してください。）また、自己の長所や特に重要と思われる事項（研究発表、特に優れた学業成績、受賞歴、留学経験、特色ある学外活動）などの自己評価についても記述してください。

5. 研究活動の状況

申請者氏名 _____

(10 ポイント以上の文字で記入。1 ページ以内とし様式の改変・追加は不可)

(1) 現在までの研究活動について記述してください。卒業研究やそれに準ずるもの（特別実験、理論演習など）を含めても構いません。

以下の項目については、申請者が中心的な役割を果たしたもののみ、項目に区分して記載してください。その際、通し番号を付すこととし、該当がない項目は「なし」と記載してください。申請者にアンダーラインを付してください。

(2) 国内学会・シンポジウム・国際会議等における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載してください。）

本人が発表したもののみ、著者（申請者を含む全員の氏名を、発表時と同一の順番で記載してください。ただし、著者名が多数におよぶ場合は、他〇〇名として一部を省略可とします。）、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。（発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載しても構いません。その場合は、それを証明できるものを添付してください。）

(3) 学術雑誌等に発表した論文、著書（印刷済または採録決定済のものに限り。また、査読の有無を区分して記載してください。）

著者（申請者を含む全員の氏名を、論文と同一の順番で記載してください。ただし、著者名が多数に及ぶ場合は、他〇〇名として一部を省略可とします。）

題名、掲載誌名、発行所、巻号、頁、発行年をこの順で記入してください。採録決定済のものについては、それを証明できるものを添付してください。

(4) その他（受賞歴等）

様式 2

東京大学国際卓越大学院教育プログラム（WINGS-GLAFS）申請者に関する意見書

このページは指導教員が作成し、封筒に入れて封をしてください（表に応募者の名前と所属専攻を明記）。

※ただし、指導教員から直接事務局にメールで提出の場合は、指導教員の押印がなされたものとして取扱いますので、原本の提出は不要です。提出先：info@glafs-u-tokyo.ac.jp

① 申請者氏名	
② 研究課題（申請書の「研究課題」を記入）	
③ 申請者に対する評価	
④ 総合評価 申請者の研究能力を総合的に評価し、該当する項目に○印をつけるとともに、推薦の順位を記してください。	(1) これまで指導した学生の中で a. 上位 10 % 程度 b. 上位 25 % 程度 c. 上位 50 % 程度 d. 上位 50 % 以下 (2) 推薦する学生 ____ 名中 ____ 番目

☐（チェック） 本コースでは卓越 RA による経済的支援を行います。本人が希望する場合、卓越 RA の研究指導を行うことを了承します。

評価者の所属機関：東京大学 _____ 研究科・研究所
職： _____ 氏名： _____ (印)